

大平正芳の中国・東アジア外交

経済から環太平洋連帯構想まで

歴史の転換点に大平正芳はどのような舵取りを行ったのか？ いま、日本の政治は大平外交に何を学ぶべきなのか？

本書では13人の気鋭の研究者が執筆した「総論」の他、「経済外交」「地域主義」「アジア外交」「対中外交」「対ソ外交」「対中経済外交」の6つの論点に関わる論文をおよそ時系列的に採録。

大平外交の対外政策を「外交文書」に基づいて分析した事例研究が採録されている点、大平外交の受け手であった「中国」や「台湾」の観点に関わる論考が掲載されている点で、おおいに意義のある論文集となる。

序論——井上正也・川島 真

第一章 宏池会首相たちの外交と系譜——宮城大蔵

第二章 大平正芳の経済外交——鈴木宏尚

第三章 環太平洋連帯構想の淵源——大庭三枝

第四章 大平外交の出発——金恩貞

第五章 中華民国から見た大平正芳訪華——川島真

第六章 中国から見た大平正芳——杉浦康之

第七章 大平正芳と日中国交正常化——鹿雪瑩

第八章 日中航空協定と大平正芳——井上正也

第九章 一九七〇年代日中ソ関係と田中・大平——横山雄大

第一〇章 福田外交と大平外交の変化と連続——若月秀和

第十一章 大平政権の環太平洋連帯構想における中国・ソ連——神田豊隆

第一二章 対中ODAの始動——徐顕芬

第一三章 国際秩序と日中関係の狭間——李彦銘

あとがき——川島 真・井上正也



編著者略歴

川島 真(かわしま・しん)

東京大学大学院総合文化研究科教授。

1968年生まれ。1992年東京外国語大学外国語学部卒業、1997年東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。専門は中国近現代史、アジア政治外交史。

単著に『中国近代外交の形成』（名古屋大学出版会、サントリー学芸賞受賞）、『近代国家への模索 1894-1925』（シリーズ中国近現代史②、岩波新書）、『中国のフロンティア—揺れ動く境界から考える』（岩波新書）など。

井上 正也(いのうえ・まさや)

慶應義塾大学法学部教授。

1979年生まれ。2002年神戸大学法学部卒業、2009年同大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（政治学）。専門は日本政治外交史。単著に『日中国交正常化の政治史』（名古屋大学出版会、サントリー学芸賞・吉田茂賞受賞）、共著に『評伝 福田赳夫』（五百旗頭真監修、岩波書店）、共編に『大平正芳秘書官日記』（森田一著、東京堂出版）など。

貴店印・帳合

注文数

大平正芳の中国・東アジア外交

経済から環太平洋連帯構想まで

四六判/本文516頁

川島真・井上正也/編著
定価：本体3,000円(税別)

ISBN978-4-910739-50-2

発売日：2023年3月6日

ご担当

様

冊

PHPエディターズ・グループ

発行

PHPエディターズ・グループ

〒135-0061

東京都江東区豊洲5-6-52 11階

☎ 03-6204-2931

FAX 03-6204-2932

ご注文はJRCへ▶▶▶▶ FAX 03-3294-2177

※返品条件付き注文扱い
すべての取次への出荷が可能です。